

2024 年度 事業報告書

概 況

2024 年度のわが国経済を振り返りますと、景気は緩やかに回復しました。中国経済の減速等の下押し要因があったものの、世界的な半導体市場の回復等が支えとなり、輸出は横ばい圏内で推移しました。また、インバウンド消費は増加基調が続きました。一方、個人消費は高い賃金上昇率が支えとなり、物価高が長期化するなかでも緩やかに回復しました。企業の設備投資も企業収益が高水準で推移するもとの、回復基調を維持しました。

このような状況のもと、当協会では、在宅勤務の拡大などコロナ禍で大きく進出したパラダイムシフトに柔軟に対応し、精度の高い健診を通じて、生涯にわたる健康づくりをご支援し、健康社会の構築に努めてまいりました。

当協会の 2024 年度売上は、33.7 億円で前年度比 4.3%増加となりました。集団検診事業と 3 つの診療所事業で前年度比 1.1%の増収となったほか、生活習慣病予防を担う専担部署の新設により、特定保健指導を通じた健康増進事業が増収に大きく寄与しました。利益面では、料金改定や効率的なオペレーションが奏功し、また補助金収入もあったことから、経常利益は 0.8 億円となりました。

なお、純資産の当期末残高は 12.8 億円となり、自己資本比率は 57%と引き続き高い健全性を維持しております。

当協会は内閣府より認可を受け、2012 年 4 月 1 日に「一般財団法人京浜保健衛生協会」となり、13 年が経過しました。新たな公益法人の役割の中で行政をはじめ、関係諸団体と連携を密にし、当協会の定款に定める健康診断並びに調査研究指導・啓発広報等を通じ、国民の生活習慣向上のために健康診断事業を適切に推進していきます。引き続き関係各位のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

I. 集団健康診断事業・診療所事業

1. 集団健診事業

1) 受診者数・売上状況

- ・ 定期健康診断が近年減少傾向となっておりますが、学生健康診断と特殊健康診断が受診者数を伸ばし、2024 年度の受診者数は前年度比 3 千人増加し、37.3 万人となりました。
- ・ 売上は 20.3 億円で、前年度比 0.1 億円の増収となりました。

2) 主な動向

・ 健診依頼システムの導入

現場での検体依頼を IT 化したことにより、依頼データの精度向上・時間短縮・手順の簡素化を図ることが出来ました。

・ 健診 GO（予約システム）の活用

診療所の予約システム（健診 GO）を、一部の集団健診や公益事業の予約で利用できるようにしたことで、受診者の利便性向上に繋がりました。

・ 胃胸部併用 X 線デジタル検診車の導入

一般財団法人日本宝くじ協会の社会貢献広報事業による助成を受け、胸部 X 線デジタル検診車を 2025 年 2 月に新規導入しました。新車両は、蓄電池システムを搭載、電源が無い所での健診が可能で、排出ガス・騒音・振動が大幅に低減されています。また、車椅子対応リフトを搭載し、より多くの方の受診機会を増やすことが出来るようになりました。

2. 診療所事業

1) 受診者数・売上状況

- ・ 本部診療所の受診者数は約 2.6 千人で、売上は 4.8 億円と前年度と

同程度（微減）となりました。

- ・特定企業の方を健診対象とする2つの診療所（健診センター、渋谷診療所）は、受診者数は前年度比減少したものの、料金改定や諸施策により、共に前年度比増収となりました。

2) 主な動向

- ・予約システムの拡大

団体予約から開始したWEB予約システムの対象事業所を拡大しました。今後は全ての受診者がWEB予約に移行できるよう計画しています。

- ・読影システムとの連携

心電計を新たに購入して、読影システムと連携することで、業務効率化とペーパーレス化を図ることができました。

- ・通過管理システムの導入

受診者が円滑に検査出来るよう通過管理システムを新たに導入しました。

Ⅱ.調査研究事業

1.調査事業

- ・がん検診から早期発見、早期治療につなげ、ひいてはがんの死亡率減少に寄与することを目的に、がん検診の追跡調査を実施しています。
- ・2023年度、がん検診（胃・胸・大腸・子宮・乳房）の受診者は、約34万人（男65%、女35%）のうち、要精密となった方から約4百人の追跡調査を行いました。30人でがんが発見され、乳がんが7割弱を占めています。

2.健康支援事業

- ・健康診断に付随して、電話による相談も含め、それぞれ必要に応じた場面で健康相談を行っています。

- ・2024 年度は、6 百人弱の方に面接による健康相談を行ないました。

3.特定保健指導

- ・生活習慣改善で大事なことは「自己効力感」と言われています。当協会のプログラムは、対象者の方々の個別性を踏まえ、自己効力感を高め、メタボ脱却に向け 3 か月間の支援を行なっています。
- ・2024 年度は、積極的支援、動機付け支援、動機付け支援相当、合わせて約 3 百人強の方に特定保健指導を実施しました。

Ⅲ.公益事業

当協会は、（１）幼稚園事業、（２）JMS 事業、（３）講演会事業、（４）広報事業の４つを柱として、公益事業に取り組んでいます。

1.幼稚園事業

- ・子育てで忙しく日頃健診を受ける機会が少ない幼稚園児の母親および教職員を対象に、血液検査・骨量測定・婦人科検診の場を提供しています。2024 年度は ABC 検診を新たに追加しました。

2.J M S 事業

- ・日本乳がんピンクリボン運動が 2009 年から乳がん検診の受診率アップのために取り組んでいる「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー」に当協会も賛同し、乳がん・子宮がん検査を実施しています。
- ・2024 年度は 10 月 20 日(日)に開催し、1 百人弱の方が受診されました。

3.講演会事業

- ・健康づくりや疾病の予防等、保健衛生に関する知識の普及と啓蒙を目的に、企業の健康管理者や地域住民に広く門戸を開放して、学識著名人による健康管理講演会を開催しています。コロナ禍で開催できない年が続きましたが、2024 年度は 5 年ぶりの開催となりました。

した。

- ・講師に内科、循環器科のエキスパートとして多方面で活躍されている池谷敏郎先生（池谷医院院長）をお招きして『血管を鍛えて、健康経営！』（～人生 100 年時代を生き抜く「生活習慣の改善方法」～）を開催し、120 名の方に参加いただきました。

4.広報事業

- ・広報誌「ほほえみらいふ」を次の通り発行しました。

2024 年 7 月 1 日 84 号 2,000 部

2025 年 1 月 6 日 85 号 2,000 部

発送先：官公庁、事業所、地区組織、全衛連加盟機関等

以 上